

1 単元名 「地域に生きる」

2 単元の目標

・地域の実情や防災に関する現状に自ら課題を見出し、持続可能な社会・まちづくりとして、災害への強靱性に焦点を当てた防災について理解することができる。 【知識及び技能】

・「自助・共助・公助」について理解し、防災や減災にどう取り組めばよいかを考える。

【思考力、判断力、表現力等】

・地域や防災について知ることで、社会的背景を理解し、地域との関わりを積極的に深め、地域のために自分ができることを考え行動しようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元設定の理由

(1) 生徒観

地域のことが好きな生徒は比較的多いが、地域と自分とのつながりや地域のために自分に何ができるかを考える生徒は少ない。生徒は、地域の人の温かさや文化財の重みを感じているものの、地域とのつながりは希薄になってきている。そこで、自分たちにとって身近な地域に触れる活動を行うことによって、自分と地域のつながりや、地域のよさや課題を知るとともに、地域への理解を深め、地域をさらによくしようとする積極的な態度を養わせたい。さらに、今後自分たちはどのように行動していけばいいのだろうかということを通して、地域の一員としての自覚と意欲を持たせたい。

(2) 教材観

本校は松山市中心部に位置し、地域に歴史的な文化財が多く存在している。また、土砂や洪水が起きやすい地域となっているため、校内でも、4月に垂直避難訓練が行われた。昨年は、校区の松山城ががけ崩れとなったり、集中豪雨のため校区が浸水したり、清掃時間帯に地震が起きたりした。そこで、生徒自身が自ら課題を設定し、地域の文化財を守り受け継いでいく意識を高め、未来の地域を担う一員として、現在の自分と地域の関わりについて探究し、地域に生きる実感を持たせるために本単元を構想した。

(3) 指導観

本題材の指導に当たっては、まず、身近に起こった土砂災害をもとに、災害の危険性についてビデオや教師の話から防災とはどういう意味なのかを自分事として捉え、課題を持たせたい。

次に、夏休みに身の回りの危険箇所や避難場所、避難経路を実際に歩いて調べさせる。避難地点まで実際に歩いて調べることで、意欲や地域の一員としての自覚を持たせ、改善点や自分が中学生として何ができるのかを考えさせたい。また、2学期には、ゲストティーチャーを招いて「逃げ地図」づくりを行う。夏休みに調べたことをもとに、避難地点までの時間や危険な場所と逃げる方向を考えながら作成するという取組である。災害は地域の助け合い「共助」そして、防災や避難を自分ごと化して守る「自助」が大切であることを理解させる。さらにそれらを生かして、松山市民防災課の方を招いて「マイ・タイムライン」を作成し、家庭での共有を図らせる。いざというときに自分も周りの人も救えるジュニアリーダーになることを意識付けさせる。

そして、すべての学習を踏まえて、「命のはがき」や「防災マップ」を作成し、離れて暮らして

いる家族や友人にはがきで命の大切さを伝えさせたり、地域の方を招いて防災に対する自分たちの考えを伝えさせたりする。これらの活動を通して、命の大切さや防災への意識を高め地域に自分ができることを考えさせる。

(4) ESDとの関連

●本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・相互性・・・災害は自然現象だけでなく、社会的な課題としてとらえる。自助共助、自分自身の命だけでなく、家族や地域全体に広げることが大切である。
- ・公平性・・・高齢者や子ども、障害をもつ人々、外国人などの存在に目を向け、誰一人残さない防災・減災対策について考える。
- ・有限性・・・自然災害を完全に防ぐことには限界があることを認識し、自然の力に対する謙虚さや共生の考え方を育む。

●本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・多面的・総合的に考える力
地域、社会、環境など、様々な視点から防災・減災について考える。
- ・未来像を予測して計画を立てる力
未来に起こりうる災害を予測し、「一人ひとりが心掛けること」「地域に働きかけること」を具体的に計画し、具体的な行動に結びつける。
- ・他者と協力する態度
地域住民、行政、学校、企業など多様な主体と協力し、協働して課題を解決しようとする態度を養う。

●本学習を通して育てたいESDの価値観

- ・世代間の公正
高齢者や子ども、障害をもつ人々、外国人などの存在に目を向け、誰一人残さない防災・減災対策について考える。また、持続可能な社会づくりの一環として位置づけ、将来にわたって活用・発展させていく責任を自覚する。

●達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○ 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解している。	○ 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	○ 探究的な活動に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

5 指導計画

主な活動内容	時数	指導上の留意点
1 オリエンテーション	1	○ 校区の災害状況や文化について関心を持たせるとともに、今後の活動について見通しを持たせる。
2 防災とは	1	○ 校区の史跡が、もし災害に襲われたとしたらどんな被害が起こりうるか、そして、今「何に気を付けておくべきか」「何ができるか」考えさせる。
3 土砂災害・洪水災害について調べる。ハザードマップの確認。	2	○ 動画「土砂災害について学ぶ」「洪水災害について学ぶ」を視聴し、気を付けなければならないことを考えさせる。 ○ 動画「ハザードマップの見方を学ぼう」を視聴し、グループで家の近くの危険をハザードマップで確認する。
5 防災まち歩き ・身の回りの危険個所や避難場所の確認し、ロイロで発表できるようまとめる。	夏休みの課題	○ 気になる場所の様子をタブレットで写真に撮るなどして、マップ作りに生かせる情報を収集させる。
6 夏休みの課題を発表する。	2	○ 学級班内で発表し、情報を共有させる。
7 「逃げ地図づくり」を行う。 【出前授業】	2	○ マイ・タイムラインとも合わせて、今後の利用に生かせるように意識付けを行う。
8 マイ・タイムライン	1	○ 逃げ地図作りで学習したことを踏まえて、マイ・タイムラインを活用させる。
9 命の教育・命のはがき	2	○ 防災に関する講話を聴き、命の大切さや災害発生時における自助・共助・公助の意識を育てる。 ○ マイ・タイムライン、逃げ地図づくりの学習を振り返り、災害発生時に中学生としてできることを真剣に考える力を身に付けさせる。 ○ 命のはがきを通して、学びを伝えさせる。
11 地域防災マップづくり	4	① 防災マップ内に入れる情報を話し合ってまとめさせる。 ② ある程度絞った場所の周辺を分かりやすく細かく作成させる。 ③ 誰にでもわかりやすい防災マップに仕上げる。 ④ 今までの学習で学んだことを活かす。
13 発表（学級・学年・地域）	2	○ 調べたことを伝えさせる。



現在の学年終了時に目指す姿

持続可能な社会づくりの一環として位置づけ、自助共助、自分自身の命だけでなく、家族や地域に住む、高齢者や子ども、障害をもつ人々、外国人などの存在に目を向け、誰一人残さない防災・減災対策について考え、行動できるようにする。

初期微動を感じてからゆれの大きな主要動を感じるので、主要動のゆれに備える必要があるな。

総合的な学習の時間 「地域に生きる」

○ 主に養いたい ESD の資質・能力

【多面的・総合的に考える力】

・地域、社会、環境など、様々な視点から防災・減災について考える。

【未来像を予測して計画を立てる力】

・未来に起こりうる災害を予測し、「一人ひとりが心掛けること」「地域に働きかけること」を具体的に計画し、具体的な行動に結びつける。

【他者と協力する態度】

・地域住民、行政、学校、企業など多様な主体と協力し、協働して課題を解決しようとする態度を養う。

○ 主に育てたい ESD の価値観

【世代間の公正】

・高齢者や子ども、障害のある人々、外国人などの存在に目を向け、誰一人残さない防災・減災対策について考える。また、持続可能な社会づくりの一環として位置づけ、将来にわたって活用・発展させていく責任を自覚する。

理科

「動き続ける大地」

地震による大地の変化と災害について知り、地震がもたらす災害にどのように対処すればいいか考えさせる。

避難訓練

「垂直避難」

大雨による内水氾濫時の非常事態に対し、安全かつ冷静に避難できるように避難経路の確認を行う。

下の階の人たちが、上がってくる。教室のスペースを確保しておかないといけないな。

社会科 地理分野

「自然災害と防災・減災への取組」

地震・津波や台風、河川の氾濫、火山の噴火など、多くの自然災害の実例や防災への取組を扱い、生徒の主体的な防災・減災への意識を高められる。

様々な災害において地域の実態に応じた取組があることが分かった。住み続けられるまちづくりについての考えが深まった。

総合的な学習の時間

「地域めぐり」

文化財がなぜ今まで残っているのか、地理的なこと防災のことを含めて巡ることで、地域のミドルリーダーとして地域に生きる意識を高める。

文化財がずっと残っているということは、地理的にも安全なところなのだろう。昔の人たちは、災害が起こった時にこういう神社やお寺に避難したのかもしれないな。

7 授業の実際

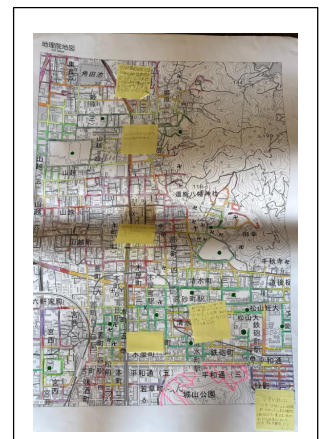
(1) 防災まち歩き (夏休み)

地域を実際に歩いての危険箇所や避難場所の様子をタブレットで写真を撮り、記録し、防災マップ作りの資料集めを行った。実際に歩くことで、普段見逃しがちなところも気付くことができた。



(2) 逃げ地図づくり

損保ジャパンのワークショップでは、避難地点までの時間を色分けし、避難方向を図示した地図を制作する。避難経路が色塗りされることで、直感的に危険な場所と逃げる方向を理解することができた。このワークショップを通じて災害など万が一の際の地域の助け合い、「共助」の形成にもつながることができたと考えられる。



(3) マイ・タイムライン



松山市役所の市民防災課の方に来ていただき、防災におけるマイ・タイムラインの重要性や意義を学んだ。実際にマイ・タイムラインを作成し、いざというときにも自分も周りの人も救えるジュニアリーダーとしての意識を高めることができた。

災害に備えてどこに避難するか、いつ・どんな行動をとるか事前に決め、命を守るためにも、家族で共有することの大切さを実感させることができた。

(4) 防災マップづくり

学習したことを防災マップにまとめ、地域の人に伝えることをねらいとしている。高齢者や幼児、体の不自由な人、外国の人など、地域には様々な人たちが住んでいる。一人でも多くの人たちの命の助けになるように、誰にでもわかりやすい資料をつくることを意識させた。そして、今回の防災学習でお世話になった方々を招いて助言をいただくことで、より一層自分たちが地域に生きていることを実感させることができた。



8 成果と課題

○ 成果

<学習を終えた生徒の感想>

- ・グループの人たちと具体的な行動について真剣に話し合いを行うことができた。小学生のときも防災について学習したが、自分がどう逃げるのか考えていなかった。今回、お年寄りや外国の人、体の不自由な人など地域には様々な人がおり、困ったときにすぐ助けられるように、手話や英語を覚えておくのも大切だと思った。いざ災害が起きた時には正しい情報を確認して自分や周りの人の命を守れる行動をしたい。
- ・今回の防災学習で学んだことを、家族や地域の方に伝えることはできたが、まだまだ伝えられていない大切な人は他にもいる。いつ起きるかわからない災害に備えて、早めの情報共有を心掛けたい。防災の知識というのは無数にあると思うので、学び続ける必要がある。今後も真剣に取り組み、自分の命はもちろん、大切な人の命を守れるように頑張りたい。
- ・自分たちの学習したことを母校に行き、出前授業をしたい。

生徒の感想を見ると、今回の学習を通して、地域全体に視野を広げて学習できることができ、地域のジュニアリーダーとしての自覚が持てたと考えられる。また、実際に歩き、地域の方や専門家の話を聞いたり、同じ地区に住む友人と協力したりしながら課題を解決することができた。

また、発表だけでなく、この防災マップをどう生かしたいかという考えも生徒からでたことは、学習の成果につながったと考えられる。

● 課題

- ・小学校で学んだ「お年寄りや体の不自由な人の疑似体験」、「防災学習」などをもう一度、振り返せるともっと様々な視点で考えを深めることができたのではないと思う。小学校からの学びをつなげるとよかった。
- ・防災まち歩きを一回ではなく、自分たちのつくった防災マップをもとに実際に歩いて確かめる時間もあればよかった。